

合掌村 旧岩崎家と土雛

旧岩崎家住宅は1810年に建てられました。当初は、現在の富山県南砺市の五箇山地方に建てられましたが、1968年に現在の場所に移築されました。合掌村の10棟の家屋のうち、五箇山から移築されたのはこの1棟のみで、来訪者は19世紀の五箇山地方の伝統家屋の特徴的な建築様式を観察することができます。五箇山は、妻入様式の民家建築が特徴です。妻入とは、旧岩崎家住宅に見られるように、出入り口が切妻方向にある民家を指します。これは、民家の長辺の方に出入り口がある平入とは異なり、より一般的なのは平入の方です。

旧岩崎家住宅は現在では民俗資料館になっており、19世紀の岐阜県の村々の日常生活で使われていた道具や遺物が展示されています。資料館の展示品には、古い教科書や学校の制服などの子供の教育用品、民俗陶芸品、及び古代の甲冑などがあります。

また民俗資料館には、土雛という土人形も展示されています。土雛は、下呂やその周辺の地域では、毎年春に祝われるひな祭り（少女のお祭り）と関連しています。江戸時代（1603年-1868年）から1960年代まで、ひな祭りになると地元の人々は子供に土雛を買って家に飾り、祭りの食べ物を供え、子供の成長と春の到来の両方を祝うのが習わしでした。土雛の主題は、歌舞伎の登場人物から可愛らしい動物まで様々でした。合掌村は、毎年2月上旬から4月上旬までひな祭りを祝い、その間土雛まつりの一環として、村中に約1,500体の土雛が飾られます。